

横浜市金沢区で居宅介護、訪問介護、小規模多機能事業所、地域密着型通所介護などを運営。

訪問介護担当ヘルパーの勤務管理と請求業務効率化のためツールを導入。事務作業時間削減に加え、介護サービスの質も向上！



ITツール導入のきっかけ



書類ベースでの事務作業時間が多く残業が増加。介護の専門家としての業務を圧迫することが問題に

訪問介護業務におけるサービス提供時間の細分化などにより、ヘルパーを管理するサービス提供責任者の業務が増加。それまで活用していたシフト管理・請求業務ツールでは対応が追いつかない状況でした。サービス内容を正確に把握したうえで介護保険請求を行うため、請求期日間近になると事務作業の負担から残業も増え、介護の専門家としての仕事に支障をきたすようになっていました。

またヘルパーも現場でのサービス提供時間を書類に記録する手間が増え、介護時間が短くなるという問題も。書類ベースでの業務記録では、サービス提供責任者が手作業で介護計画と勤務状況を突き合わせる必要があり、大きな負担でした。

取り組み



利用中のシステムとのデータ連携も重視。職員の事務作業負担軽減のためツールの導入を決定。



自動化・効率化
ツール

導入したITツール：

訪問介護支援システム「Care-wing 介護の翼」（株式会社ロジック）

ICタグによってヘルパーの訪問介護サービス状況や時間を自動的に把握。さらに事務処理をIT化し、介護保険請求業務を効率化。

セミナーで紹介を受け、「Care-wing」は訪問介護の一連の業務に特化したシンプルなシステムのため使い勝手が良いと感じ、採用を決断。今まで利用していた介護保険請求システム「介舟ファミリー」と連携できることも導入の決め手に。

効果



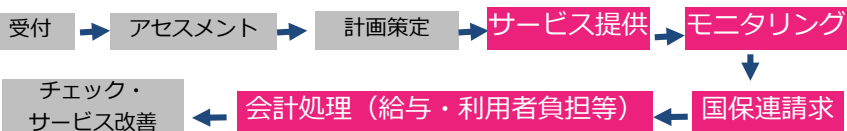
ICタグで訪問介護のサービス時間を管理。請求システムと連動させることで事務処理時間を大幅削減。

スマートフォンなどの端末に馴染みがあるヘルパー10人と当社と馴染みの深い利用者様10件を選び、2ヶ月ほど試験的に利用を開始。そこで使い勝手や課題点などを洗い出し、マンツーマンのスタッフ研修を重ねながら段階的に導入を進め、時間をかけて全ヘルパーと利用者様に展開していきました。

ICタグで訪問介護のサービス開始と終了時刻が正確に記録されるため、曖昧さがなくなりヘルパーの勤務時間に対する意識も向上。従来のように書類に記入する手間がなくなったぶん、利用者様と接する時間が増えるという効果もありました。

これまでではサービス提供責任者が介護保険請求や給与計算など書類確認の事務作業に追われていましたが、記録がデータ化されたことで転記がなくなり業務がスムーズに。手作業によるミスや文字の読み間違いもなくなりました。時間に余裕ができ、介護の専門家としての本来の業務や若手の指導に時間を割けるようになりました。またペーパーレスが進み、記録書類の保管スペースが不要になるという効果も現れました。

業務フローのココに効く！



有限会社青空

介護

〒236-0021

神奈川県横浜市金沢区泥亀1-15-2

ひいちやビル3F

創業：2003年4月

資本金：300万円

従業員数：150名

<http://www.aozora-care.com/>



アドバイス



会社としてITツールを導入する必要があるか、その理由や目的を明確にして職員たちに説明し、みんなが納得した状態で導入に取り組むことが成功の秘訣だと思います。一度にすべての環境を整えようとせず、段階的に浸透させていけば、ITに不慣れな職員やヘルパーへの負担も少なくなるはずです。

